

事例 17 山梨県都留市

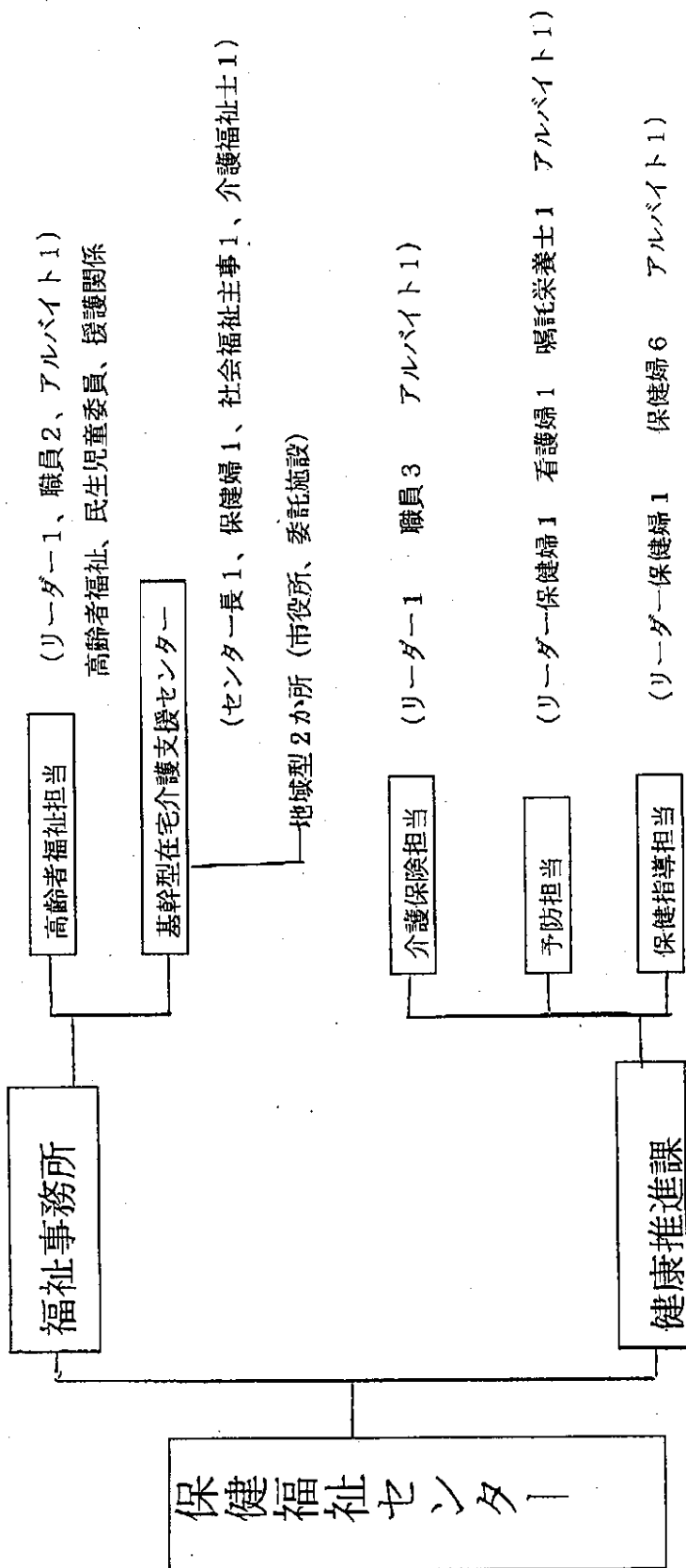
人 口	34,418 人
高齢者数	6,466 人
高齢化率	18.79%
担当部署	市民部健康増進課

1. 市町村の概況

市町村の沿革・概要	山梨県の東部に位置し、東京都から約90km、甲府市より約50kmの距離に位置している。 面積は161.58km ² 、標高は中心地2490m、周囲は1000m級の美しい山々に囲まれている。 昭和29年4月に5村を合併し市制を施行した。昭和30年 都市計画大綱を制定(35.44年制233) 人口は3万4千人、甲府県の増加を続けている。全国と同様に少子高齢化が進んでいる (25. 9.8% → 25年18.8%)										
	人口	34,418 人			高齢者数 (高齢化率)	6,466 人 (18.8%)					
世帯数	65歳未満の者のみの世帯			65歳以上の者のいる世帯			3163				
	11,762	8,599			単独世帯	65歳以上夫婦のみの世帯			その他		
要介護認定 (申請)者数	申請中	非該当	要支援	要介護1	2	3	4	5	合計		
	10	20	35	167	128	93	95	99	650		
社会	指定居宅サービス事業所 (か所数)	訪問看護 (3)			訪問介護 (3)	通所介護 (2)					
		通所リハ (1)			短期入所系 (2)	その他 ()					
資源	指定居宅介護支援事業所 (か所数)	7 か所									
	保健センター 在宅介護支援センター (か所数)	保健福祉センター 1か所 在宅介護支援センター (基幹型1か所、地域型2か所) ※保健福祉センターなど、保健・福祉が一体となった施設があれば、記入して下さい。									
状況	介護予防事業の拠点となりうる場 (か所数) (公的施設以外も含む)	地域コミュニティセンター (4か所) 文化会館 (1か所)									
	介護予防事業の担い手となりうる組織・団体 (組織・団体数・人員数)	・民生委員 (82人) ・老人クラブ59 (総数3860人) ・在宅ケア委員会 (10人)									

H13.9.
H13.12末

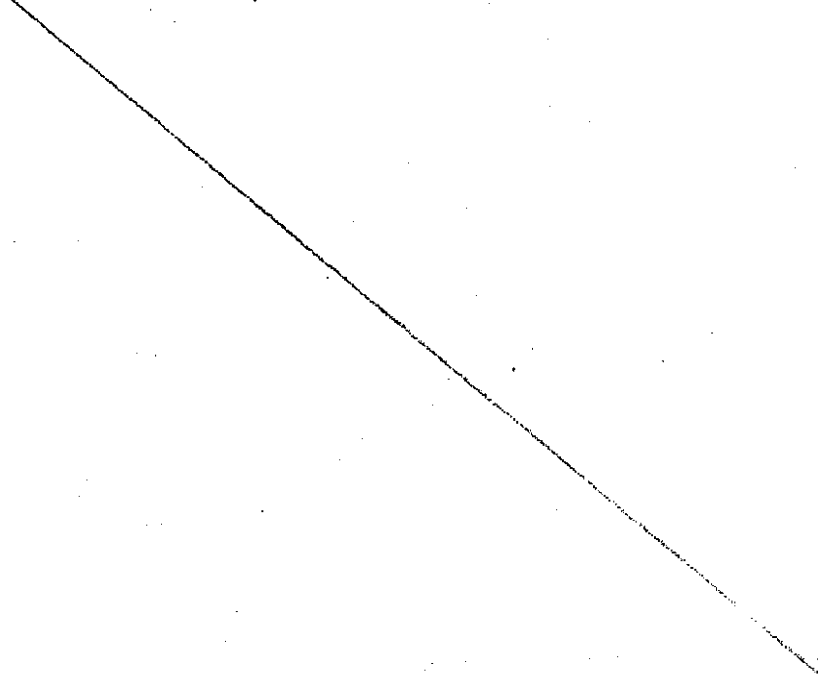
※データについては、できるだけ直近のものをお願いします。



3. 「介護予防事業」を企画する前の状況について

質問項目	回答欄
<p>(問1) 「介護予防事業」に関連(類似)する事業がありましたか?</p>	<p>(○) 関連(類似)事業があった。 → 問2～問4へ () 関連(類似)事業はなかった → 問5へ</p>
<p>(問2) 実施していた事業は、どのような根拠に基づき、どの部局が所管していた事業ですか? また、その事業内容についてもご記入下さい。</p> <p>※既存資料で、事業内容等わかるものがあれば添付して下さい。</p>	<p>記入項目例：事業実施の根拠(国庫補助事業、県単独助成事業)、 所管部局、 事業内容(事業名、事業目的、対象者、実施回数、スタッフ等)</p> <p>平成7年～11年までモデル事業として実施(2002) ： 県単独事業(10歳総后(2)事業) ： 市民部・健康推進課 ： 元気で長生き健康教室</p> <p>目的：高齢者が自立して生活するため 必要は身体的活動能力「生活体力」を 測定・評価しながら、運動習慣を 身につけて自分たちで健康づくりをする。</p> <p>対象者：東桂・谷村地区 高齢者</p> <p>実施回数：年6回</p> <p>スタッフ：山梨ウェルネスセンター 野呂順彦先生 明治生命厚生事業団保健生活研究所、保健婦 齋藤</p>
<p>(問3) 上記事業の効果測定(評価)を行いましたか?</p>	<p>(○) 行った () 行っていない ↓ (具体的方法) 参加15人と参加12人の自立度・死亡率・医療費についての比較</p>

3. 「介護予防事業」を企画する前の状況について

質問項目	回答欄
<p>(問4) 従来の事業を「介護予防事業」という形で見直したり、また新たな施策を企画することになった経緯について下記の様な点を含めて記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心となった部局はどこか？ ・何がきっかけとなり、どのような判断をしたのか？ 	<p>健康推進課 から行って、また「元気で長生き健康教室」が高齢者の健康づくりに効果的(モデル地区)</p> <p>認めました。そこでその視点で考えた。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 今までのそのモデル地区の健康づくりより自主的な活動としてさらなるモデル地区として発展させること ② 全市(他の5地区)への健康づくり活動の実践を促す。 <p>①、②を進めるにあたり、健康推進課だけでなく福祉事務所、社会福祉協議会、生涯学習課等と連絡して可能な限り必要性がある。</p>
<p>(問5) (問1)で、関連(類似)事業がなかったと答えた市町村にお聞きします。 今後、「介護予防事業」に取り組もうとしたきっかけは何ですか？</p>	

4. 「介護予防事業」の企画立案体制について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1) 「介護予防事業」の企画立案体制について下記のような点を含めて記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような場を利用し、どのような機関・団体等と協議したのか？ ・学識経験者や現場の担い手などの意見をどのように採り入れたか？ ・高齢者やその家族、地域住民等の参加する機会があったのか？ ・どの部局が中心となって企画し、他の部局との協力体制は、どうであったのか？ 	<p>(1) モデルの地区については、今までの教室参加者とあつたな会員により、名称もそれぞれ「健康くらぶ」「クラス会」とあつたため、会代表者の集まりとつくり、その中で回数や内容を決め、健康づくりをすすめていくことになった。 (内容は別紙のとおり) アドバイザーとして、明治生命厚生事業団研究員、保健婦が入り進捗や運営、周知については高齢者自らが行う</p> <p>(2) 全市のとりくみとしては、福祉事務所、社会福祉協議会との検討を重ね、老人クラブ(65以上高齢者の約50%加入率)を母体とし、健康づくりをすすめる方向で、各地区会長に投げかけをほした。</p> <p>(3) (1)、(2)とすすめるにあたり、行政ネットワークをつくり(高齢者の支援担当者会議)定例に会議を実施。 <small>※別紙参照</small></p>
<p>(問2) 「介護予防事業」を企画する際、下記のような検討事項があったと思います。 貴市町村での検討事項と検討内容、その結果について記入して下さい。</p> <p>(検討事項例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズをどのように把握するか？ (ニーズ把握の方法) ・事業対象者の選定方法はどうか？ ・事業に従事する人材をどのように確保するか？ ・既存の設備の利用が可能か？ ・新たな設備整備が必要か？ ・どの部局の事業予算をどのように確保するか？ 	<p>ニーズ把握について</p> <p>(1) 教室の集まりの時に参加者より意見は30分、内表者会議の際には「」</p> <p>(2) 全市のとりくみの前に全老人クラブ会員にアンケート調査 事業の対象者については老人クラブを母体にしていくこととし、健康づくりの方法については、各地区の状況に合った方法と老人クラブの会長を中心に検討していくこととした。</p> <p>人材の確保については、<u>既存の事業と有交かに活用</u>する方針とし、行政ネットワークの中で検討する。</p> <p>最終的な健康づくりは、 高齢者自ら中心になり、 行政によるようにするため予算はあまりかけない。 (地区いきいきサロン、老人クラブ入浴日、ふれあい講座など)</p>

5. 「介護予防事業」の実施について

質問項目	回答欄
<p>(問1) 企画した「介護予防事業」の内容について記入して下さい。</p> <p>※事業の実施要綱、事業概要があれば添付して下さい。</p>	<p>〔記入項目例：事業名、事業目的、対象者、事業内容、開始時期、実施回数（週、月）、実施体制（スタッフ、研修）、事業予算・補助金、事業所管課、他課との連携（協力）体制 等〕</p> <p>(1) 高齢者健康づくり モデル地区の自主活動 モデル地区代表者会議において内容、回数は決め る。(一人一人の健康づくりの仕組み等を考慮して) H13年度 会議は隔月(6回)教室も隔日(6回) 予算はほとんどかかる必要はない健康教育費の 検討でいい。(H13年度は生活体力測定費、 関係・保健強化事業で完結)</p> <p>(2) 全市展開に向けては ・老人クラブを通じて地区の実情に合った方法を 決めたい。 社会福祉協議会と福祉事務所と連携して実施</p>
<p>(問2) 住民に対して、どのように事業を周知しましたか？</p> <p>※周知するための広報資料の現物の写しなどがあれば添付して下さい。</p>	<p>・「元気で長生き健康長寿」の効果について、パンフレットを作成し、各地区健康学習会で説明 して、13年3月に新聞に掲載</p> <p>・全市展開に向けてもパンフレットを活用</p>

5. 「介護予防事業」の実施について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問3) 「介護予防事業」の実施状況 (実績)について記入して下さい。</p> <p>※貴市町村での実施状況(実績)をまとめた資料があれば添付して下さい。</p>	<p>〔記入項目例：事業名、事業費 年間実施回数 年間利用者数(実人数、延べ人数)〕</p> <p>※1年未満の事業の実施回数、利用者数については、 実施期間内での実績を記入して下さい。</p> <p>① モデル地区 自主活動 (H18) 9回 471人 (実人数)</p> <p>② 全市にわけて 26回 1060人 (実人数)</p>
<p>(問4) 現在実施している「介護予防 事業」の実施状況を見て、うまく いっていると感じられるのは どのような点ですか？</p>	<p>① 内容や回数や進行のペースについて 自主的活動になってきている。 また、地区活動の中でワークシート健康学習会 等、いろいろな取り組みが行われている。</p> <p>② 全市にわけてはH18年度は準備期(あり) 広く検討して行い、市民の気運を 高められた。</p>

5. 「介護予防事業」の実施について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問5) うまく事業をすすめるために工夫している点などがあれば記入して下さい。</p>	<p>市の基本姿勢として、協働のまちづくりを掲げており</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市民が主体的に健康づくりや2"3"のような環境づくりを行政が行うような役割分担をお互いの共通認識のもとにすすめること 2. 行政の縦割りにではなく、横のつながり(ネットワーク)とくちすすめていくこと
<p>(問6) 今後、課題と感じている点があれば、それについても記入して下さい。</p>	<p>①高齢者一人一人の健康づくりの考えから健康サービスなどをつなげるような支援体制の確立</p> <p>いわゆる市民の健康づくりにつなげていくこと</p>
<p>(問7) 現時点で課題と感じている点に対し、考えられている対応策等があれば記入して下さい。</p>	<p>時間がかかるが、地区の状況に合、健康づくりをいかに考え、つくりあげていくプロセスをとること</p>

6. 「介護予防事業」の評価について

※行政が主体となって実施する（直轄・委託）保健・福祉事業に対する評価について伺います。

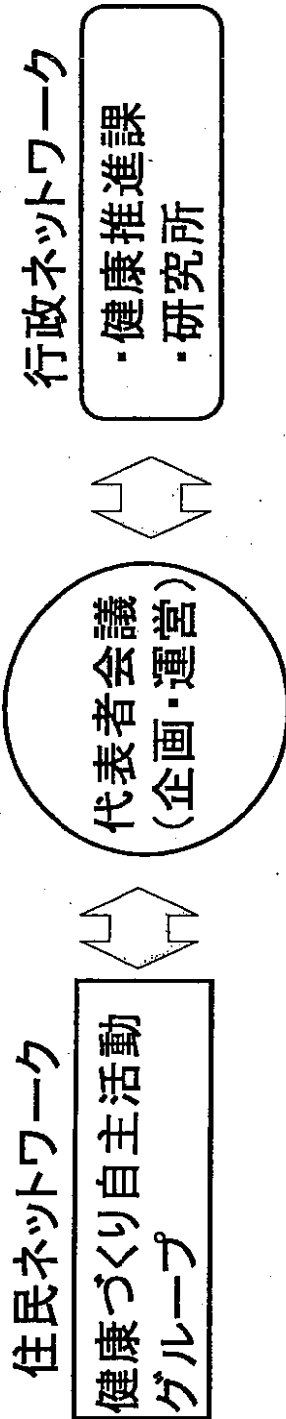
質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1) 「事業ごとの評価」について伺います。</p> <p>①各事業メニューごとに評価を行っていますか？</p>	<p>(○) 行っている。→②へ () 行っていない。</p>
<p>②具体的な評価方法について記入して下さい。 (評価指標、評価時期、評価者等)</p> <p>※「事業ごとの評価」を行っている評価の資料があれば、添付して下さい。</p>	<p>健康のまちづくり ワルネス・アクションプラン として、各事業を実施している中で、高齢者の健康づくり その一環として評価は、これまで、評価指標としては</p> <p>(1) 客観的評価 (2) 主観的評価</p> <p>別紙参照 として行う予定あり</p>
<p>(問2) 「介護予防事業全体の評価」について伺います。</p> <p>①介護予防事業全体としての費用対効果をどのように評価していますか？ また、今後どのように評価したいと考えますか？</p>	<p>① 遠征費の推移 ② 介護保険利用状況 ③ 本人のADL 主観的 健康度 (今後)</p>
<p>②各種の介護予防事業関連施策における定量的あるいは定性的な評価指標などがあれば記入して下さい。</p>	

元 気 で 長 生 き 対 策 事 業 の 経 過

年度	元気で長生き健康教室	開催回数・参加者数	市役所
平成6年度	<ul style="list-style-type: none"> 教室準備 モデル地区老人クラブ会長に説明 	8回・554人	<ul style="list-style-type: none"> 各課担当会議（社会教育課、公民館、研究所、保健環境課）
平成7年度（1年目）	<ul style="list-style-type: none"> 教室で基本検診、生活体力測定を同時実施 元気歩行、つる長生き体操を一斉指導 	12回・734人	
平成8年度（2年目）	<ul style="list-style-type: none"> 教室（2月）の会場に秋山温泉を使用 元気だより1、2号を発行 	16回・942人	<ul style="list-style-type: none"> 12月職員研修で教室の効果について中間報告
平成9年度（3年目）	<ul style="list-style-type: none"> 教室3回目（8月）よりグループワークを取り入れる 個人目標を設定、新長生き体操の指導 元気だより3号発行 	12回・823人	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者担当者会議の実施 食生活改善推進委員会の活動に運動を取り入れる
平成10年度（4年目）	<ul style="list-style-type: none"> 自主活動への取り組み 新規、フォロワー者の教室開催 	12回・880人 4回・31人	
平成11年度（5年目）	<ul style="list-style-type: none"> 新教室に向けての話し合い 代表者会議 自主活動報告会 	12回・845人 新規1回10人	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習課との会議 体育指導員との会議
平成12年度	<ul style="list-style-type: none"> 4月検診、生活体力測定 6月結果説明会 健康を考える会（代表者会議） 5年教室の効果について啓蒙 全市への取り組み 	4回・332人	<ul style="list-style-type: none"> 体育指導員との会議 体育指導員研修
平成13年度			

健康づくり自主活動の進め方

① <モデル地区での活動>



◆ 住民ネットワークの活動(自主活動の展開)

①「健康クラブ」の設立

②年間計画の立案と運営

◆ 行政ネットワークの活動(自主活動の支援)

①「健康クラブ」の事務局

1) 例会及び会議の会場確保と連絡調整

2) 資料の印刷

② 情報提供

1) 自立能力維持増進「活動余命の延長」に関する情報

2) 社会的役割「生きがいづくり」に関する情報

健康づくり自主活動の進め方

②<<全市展開を目指して>>

(構想) : 老人クラブを通じての健康づくりの展開

老人クラブ

- ステップ 1 健康づくり活動を行うことに対して会員からのコンセンサスを得ること
- ステップ 2 健康づくりのクラブ目標を定めること
- ステップ 3 目標を達成するための対策をたて、実行すること

支援

ファシリテーター:

健康推進課 & 社協

高齢者支援ネットワーク

スーパーバイザー:
財・明治生命厚生事業団
体力医学研究所

健康なまちづくりに関する実態調査の実施方法（案）

A. 評価チームの構成

- 1) 市民 2名（市民懇話会委員、一般市民）
- 2) 行政 3名（政策形成課、健康推進課、 ）
- 3) 専門家 2名（公衆衛生学：荒尾孝、社会学：中村陽一）

B. 調査の実施

1. 調査項目

●既存データを活用できる項目

1) 衛生統計

- ①死亡率（年齢別死亡率、特殊死亡割合、調整死亡率、原因別死亡率、など）
- ②障害者率（寝たきり者率、ADL障害者率、先天性障害者率、後天性障害者率、など）
- ③有病率と罹患率（高血圧、高脂血症、肥満、糖尿病、脳卒中、虚血性心疾患、癌、など）

2) 保健システム

- ①保健サービスの利用状況（受診率、入院率、入院期間、患者データ、など）
- ②サービスの利用し易さ（施設資源；ベッド数、ホーム診療所など、人的資源；医師、看護婦、歯科医、保健婦、など）

3) 医療・福祉経済

- ①医療費（診断、治療、健診、入院、など）
- ②福祉費（介護保険支払額、介護関連支出、その他の福祉支援関連費など）

4) 健康度

- ①客観的健康度（検診結果の異常値出現率、体力／生活体力、活動的平均余命、など）

5) 環境の健康

- ①大気、河川、土壌などの状態
- ②森林、緑地、公園、歴史的史跡、など
- ③資源回収システム（ゴミの排出量、資源回収率、リサイクルシステム、など）
- ④住宅事情（住宅密集度、水洗施設整備、など）
- ⑤地域環境（道路整備、上下水道整備、消防施設の整備、諸施設整備、など）

●新しく調査を行なう項目

1) 健康度

- ②主観的健康度（QOL、健康度自己評価、生活満足度、主観的幸福感、ストレス、など）
- ③保健行動（検診受診率、ライフスタイル-栄養、運動、飲酒、喫煙、など）
- ④ソーシャルサポート（家族、友人知人、隣人、地域、公的サービス、など）

2) 地域社会の健康

- ①市民活動の組織率（NPO活動数、地域活動グループ数、ソーシャルネットワーク、など）
- ②市民の生活意識（地域愛着度、住み易さ、暮らし易さ、など）
- ③市民の社会活動への参加（行事参加率、文化活動参加率、行政活動参加率、など）
- ④市民の福祉活動への参加（福祉ボランティア活動参加率、介護ボランティア活動、など）
- ⑤その他

都留ウェルネスアクションの評価項目（案）

1. 住民の健康—公衆衛生学

1) 衛生統計

- ①死亡率（年齢別死亡率、特殊死亡割合、調整死亡率、原因別死亡率、など）
- ②障害者率（寝たきり者率、ADL 障害者率、先天性障害者率、後天性障害者率、など）
- ③有病率と罹患率（高血圧、高脂血症、肥満、糖尿病、脳卒中、虚血性心疾患、癌、など）

2) 保健システム

- ①保健サービスの利用状況（受診率、入院率、入院期間、患者データ、など）
- ②サービスの利用し易さ（施設資源；ベッド数、ホーム診療所など、人的資源；医師、看護婦、歯科医、保健婦、など）

3) 医療・福祉経済

- ①医療費（診断、治療、健診、入院、など）
- ②福祉費（介護保険支払額、介護関連支出、その他の福祉支援関連費など）

4) 健康度

- ①客観的健康度（検診結果の異常値出現率、体力／生活体力、活動的平均余命、など）
- ②主観的健康度（QOL、健康度自己評価、生活満足度、主観的幸福感、ストレス、など）
- ③保健行動（検診受診率、ライフスタイル—栄養、運動、飲酒、喫煙、など）
- ④ソーシャルサポート（家族、友人知人、隣人、地域、公的サービス、など）

2. 地域社会の健康—社会学

- ①市民活動の組織率（NPO 活動数、地域活動グループ数、ソーシャルネットワーク、など）
- ②市民の生活意識（地域愛着度、住み易さ、暮らし易さ、など）
- ③市民の社会活動への参加（行事参加率、文化活動参加率、行政活動参加率、など）
- ④市民の福祉活動への参加（福祉ボランティア活動参加率、介護ボランティア活動、など）
- ⑤その他

3. 環境の健康—環境科学

1) 自然環境の整備

- ①大気、河川、土壌などの状態
- ②森林、緑地、公園、歴史的史跡、など

2) 社会環境の整備

- ①資源回収システム（ゴミの排出量、資源回収率、リサイクルシステム、など）
- ②住宅事情（住宅密集度、水洗施設整備、など）
- ③地域環境（道路整備、上下水道整備、消防施設の整備、諸施設整備、など）
- ④その他

2. 調査の方法

新しく調査を行なう項目については以下の方法で行なう。

- 1) 対象者の抽出：地区、性、年齢階級を考慮したサンプリングを行なう。
- 2) 対象者数：約3000人程度
- 3) 調査方法：調査票を作成し、郵送法により行なう。
- 4) 調査時期：平成12年度内に実施、回収する。

3. 今後の作業予定

- 1) 調査方法の確定：平成12年12月中（担当：健康推進課、体力医学研究所）
 - 2) 調査票の作成：平成13年1月中（担当：健康推進課、体力医学研究所）
 - 3) 調査の実施：平成13年2月中（担当：市民、健康推進課）
 - 4) 既存データの活用：平成12年度内（担当：政策形成課）
 - ・活用できるデータ項目の確認
 - ・データの保存方法
 - ・活用、整理の方法
 - 5) データの整理・解析：平成13年度上期（担当：政策形成課、体力医学研究所）
 - ・収集したデータファイルの作成
 - ・既存データのファイル作成
 - ・データ解析とまとめ
 - 6) 調査結果報告書の作成：平成13年度下期（担当：市民、健康推進課）
 - 7) 調査結果の公表と活用：平成13年度下期（担当：市民、政策形成課）
- ## 4. 効果評価のための調査の実施
- 1) 短期間で評価できる項目
 - ・毎年定期的の実施する
 - 2) 長期間で評価する項目
 - ・3年目（平成15年度）で実施
 - ・5年目（平成17年度）で実施